

令和 5 年度 (2023) 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：低温レーザー干渉計 CLIO による重力波研究 (VII) 英文：Study of Gravitational-wave by cryogenic laser interferometer CLIO in KAMIOKA Mine (VII)	
研究代表者	大橋正健
参加研究者	宇宙線研究所 田越秀行、三代木伸二、内山隆、宮川治、山本尚弘、 押野翔一、戸村友宣、早河秀章、上泉眞裕、中垣浩司、 東大地震研究所 新谷昌人 国立天文台 高橋竜太郎 産業総合研究所 寺田聡一 富山大学 山元一広 東京都市大学 高橋弘毅
研究成果概要 令和 5 年度は、昨年度に引き続き、低温レーザー干渉計 CLIO を運転可能な状況に復帰させるための作業を継続した。また、CLIO 実験室では重力地下観測(G20)、精密地球物理観測(G21)などの共同利用研究が行われているため、実験室環境の維持が重要である。以上のことから、CLIO 実験室内の温湿度環境の維持を開始し、片付けと清掃作業および電気系の交換等による環境整備を行った。 以上の取り組みにより、CLIO 実験室内で光学系の作業が始められるようにしつつある。将来的には、KAGRA の高度化作業に向けた光学実験を可能としたい。	